

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：32823

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K10367

研究課題名(和文) がん看護に関わる認定看護師の専門的実践能力とキャリア成熟推進への支援モデルの構築

研究課題名(英文) Establishment of a support model for the promotion of professional practical skills and career maturity of certified nurses involved in cancer nursing

研究代表者

直成 洋子 (SUGUNARI, YOKO)

東京医療学院大学・保健医療学部・教授

研究者番号：70341998

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：がん看護に関わる認定看護師の専門的実践能力およびキャリア成熟推進に向けた支援モデルを構築するための取り組みとして、全国のがん診療連携拠点病院のがん看護に関わる認定看護師を対象に、専門的実践能力に関する基礎的研究(量的研究・質的研究)により、専門的実践能力の特徴とその関連要因を解明した。また、キャリア成熟に関する研究によりキャリア成熟の特徴とその関連要因を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2019年に認定看護師の規程改正があり、特定行為研修を組み込んだ認定看護師教育の開始と認定看護分野の再編が行われた。地域へと看護現場が広がることが期待される移行期に、がん看護に関わる認定看護師の専門的実践能力の特徴を解明することは不可欠である。また、今後のがん看護分野における認定看護師の質の向上や認定看護師教育の基礎資料となり、更なる発展に寄与する。

研究成果の概要(英文)：As an initiative to build a support model for promoting the professional practical skills and career maturation of certified nurses involved in cancer nursing, we elucidated the characteristics of specialized practical skills and related factors through basic research (quantitative research and qualitative research) on specialized practical abilities of certified nurses involved in cancer nursing at cancer treatment cooperation base hospitals nationwide. In addition, research on career maturation clarified the characteristics of career maturity and related factors.

研究分野：臨床看護学 慢性期看護学 がん看護学

キーワード：がん看護 認定看護師 専門的実践能力

1. 研究開始当初の背景

認定看護師制度が開始され、約 20 年が経過しようとしている。がん看護分野では専門性の深化が進められ、がん看護教育の質の担保がなされてきた。がん対策基本法（2007 年）が施行され、がん対策基本計画の重点課題の 1 つの人材育成において、がん看護に関わる認定看護師（以下 CN と略す）が急増した。現在、がん看護に関わる CN は、CN 全体の約 3 割を占めている。

CN の役割は 3 つ挙げられ、実践（個人、家族および集団に対して、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護を実践する）、指導（看護実践を通して看護者に対し指導を行う）、相談（看護者に対しコンサルテーションを行う）である。これまでのがん看護に関わる CN に関する研究では実践報告が多くみられており、CN の役割や専門的な実践能力を構造的に捉えた研究報告はみられていない。

一方、看護職者は専門職として質の高い看護を提供することが重要な責務であり、職業人としてキャリアデザインを自ら描き生涯を通じてキャリアを発達させるよう自己研鑽していくことが求められている。現在、看護職者におけるキャリア成熟の測定尺度が開発（Karino et al, 2012）され、看護職者のキャリア成熟の実態は報告されている。しかし、看護師のキャリア発達を組織的に支持していく立場である CN のキャリア成熟についての検討はなされていない。

2. 研究の目的

本研究は、がん看護に関わる CN の専門的な実践能力およびキャリア成熟推進に向けた支援モデルを構築するために、がん看護に関わる CN の専門的な実践能力の特徴とその関連する要因を解明する。また、がん看護に関わる CN のキャリア成熟の特徴や関連する要因についても明らかにし、がん看護に関わる CN の専門的な実践能力とキャリア成熟の関係について解明することを目的とした。

3. 研究の方法

1) がん看護に関わる CN の専門的な実践能力に関する量的研究

全国のがん診療連携拠点病院のがん看護に関わる CN に無記名の自記式アンケート郵送調査を実施した。対象者は、がん化学療法看護、緩和ケア看護、がん性疼痛看護、乳がん看護、がん放射線療法看護の 5 分野の CN のなかから無作為に抽出した。

調査内容は、対象者の背景と「認定看護師の専門的な実践能力尺度」を開発者の許諾を得て使用した。所属していた大学の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

2) がん看護に関わる CN の専門的な実践能力に関する質的研究

全国のがん診療連携拠点病院のがん看護に関わる CN に無記名の自記式アンケート郵送調査を実施した。がん看護に関わる 5 分野の CN を対象とし、無作為に抽出した。

調査内容は、CN の 3 つの役割である実践、指導、相談の内容について自由記述による回答を求めた。

3) がん看護に関わる CN のキャリア成熟の特徴に関する量的研究

全国のがん診療連携拠点病院のがん看護に関わる CN に無記名の自記式アンケート郵送調査を実施した。がん看護に関わる 5 分野の CN を対象とし、無作為に抽出した。

調査内容は、対象者の背景と「職業キャリア成熟尺度」を開発者の許諾を得て使用した。

4. 研究成果

1) がん看護に関わる CN の専門的な実践能力の特徴と関連要因

対象者 432 名の看護経験年数の平均 19.9 年(SD5.7)で、CN としての活動年数は、平均 5.5(SD 3.2)年であった。専任の有無では、専任が約 3 割、専任でない CN が約 7 割であった。

がん看護に関わる CN の専門的な実践能力について、「非常に能力がある」「能力がある」の合計が 9 割以上であった項目は、＜患者の価値観を尊重する＞・＜患者・家族・重要他者の相談に対し、的確に答え指導する＞・＜専門的な知識・技術を用いて質の高い看護を提供する＞・＜他の医療従事者のもつ専門的な知識に対してお互いに価値を認め合い、協働して医療サービスを提供する＞・＜患者が自分の思いや意志を自発的に表出できる環境を整える＞・＜他の医療従事者から依頼された患者へのケアを適切に実行し、その結果を伝える＞・＜患者のケアプランに関係している他の医療従事者に対し必要な患者の情報を提供し援助方法を話し合っ決めていく＞であった。

逆に、「能力がない」「全く能力がない」の合計が高かった項目は、＜各専門領域の看護実践の

改善・開発のための研究活動を行う>・<リーダーとして優れた人格である>・<看護実践の質の向上から、看護職の新しい役割の開発を目指す>・<研究結果を看護実践に生かすために、看護職に対する援助を行う>・<系統的に思考する>であった。

がん看護に関わる CN の専門的実践能力は、がん看護経験年数および CN 活動年数による有意差が明確になった。がん看護経験年数では、15 年以上の CN は【コンサルテーション】や【倫理的ジレンマへの対応とその解決】において高い特徴がみられた。

また、CN 活動年数では、5 年以上で更新した CN は【コラボレーション】や【コンサルテーション】において高い特徴がみられた。

がん看護に関わる CN の専門的実践能力において、自己の価値観を確立できるよう自己分析することやがん看護をチームで支える他の医療職者と協働して総合的な視野から自身で課題を解決していることが明らかになった。

2) がん看護に関わる CN の 3 つの役割から捉えた専門的実践能力の特徴

① CN の 3 つの役割から捉えた実践の特徴

対象者 378 名の実践内容を質的に分析した結果、【生活者としての対象者や家族を全人的にアセスメントし QOL の向上を目指す】ことや【エビデンスに基づき安全・安楽を優先し対象者に適したケアを推進する】ために、【看護実践を可視化しロールモデルとなりより質の高いケアを実践できるよう自己研鑽する】ことや【看護チームの連携および多職種と協働する】という CN の実践の特徴が明らかになった。

② CN の 3 つの役割から捉えた指導の特徴

がん看護に関わる CN は、【傾聴・承認・尊重の姿勢を示す】ことを重要視して、【対象者の背景やニーズを把握する】ことや【相手の視点で考え反応をキャッチする】など介入し、【関わり後の評価やフォローアップを行うこと】や【組織のなかで CN としての姿勢や立場をわきまえて自己研鑽すること】を基盤としていた。そして、【実践につながる目的・目標・内容・方法を明確にすること】や【相手のレディネスを把握しモチベーションを高めること】に努め、【エビデンスを見極めて看護の視点で自己解決できるように導く】・【獲得した新しい知識・技術を伝えてモデルを示し理解を促すこと】ができるような教育的な関わりを行っていた。さらに、【研修会や学習会によりスタッフ全体の質の向上を目指すこと】や【多職種と連携して看護の質の向上に努める】などの指導における特徴が明らかになった。

③ CN の 3 つの役割から捉えた相談の特徴

がん看護に関わる CN は、【コンサルティが相談しやすい環境の提供】に心がけ、【コンサルタントの姿勢や態度】および【コンサルティとの関係性の構築】を基盤として、【コンサルティの背景や価値観のアセスメント】を行ない、【課題の本質を見極めた介入】により【課題解決のポイント】を重要視し、【コンサルテーションプロセスの確認と評価】を実施していた。また、【スタッフ全体の質の向上への支援】や【他職種との連携と円滑なコンサルテーションシステムへの構築】という相談の特徴が明らかになった。

3) がん看護に関わる CN のキャリア成熟の特徴と関連要因

【キャリア関心性】では、「看護に役立つ情報を積極的に収集するようにしている」の平均得点が最も高く、次いで「どうすれば看護師生活をよりよく送れるのか考えたことがある」という特徴がみられた。【キャリア自律性】では、「これからの看護師生活を通してさらに自分自身を伸ばし高めていきたい」の平均得点が最も高く、次いで「自分の職業生活を主体的に送っている」という特徴がみられた。【キャリア計画性】では、「これからの看護師生活で取り組みたいことがいくつかある」の平均得点が最も高く、次いで「これからの看護師生活について自分なりの見通しをもっている」という特徴がみられた。

がん看護に関わる CN のキャリア成熟では、専任の CN は自律性をより感じており、キャリア成熟の【関心性】、【自律性】、【計画性】の順に高く、やりがいと関連していた。このことより、がん看護に関わる CN はもともと自己のキャリアを成熟させることに強い動機づけがなされていることが明確になり、困難感を克服してやりがいを高めることの必要性について示唆を得た。

4) がん看護に関わる CN の専門的実践能力とキャリア成熟の関係

がん看護に関わる専門的実践能力とキャリア成熟への関心性、自律性や計画性の関連が示された。しかし、キャリア成熟尺度が CN に特化したものでないため関係の解明には限界があった。そのため、今後は CN に特化したキャリア成熟尺度の開発が必要である。

5) がん看護に関わる CN の研修会前後の専門的実践能力の効果の検証

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響により、がん看護に関わる CN の研修会や研修会前後の調査を実施することは困難であった。COVID-19 の状況によりがん看護に関わる CN の役割や能力もそれ以前の状況より変化していることが予測された。そのため、専門的実践能力の効果の検証までに至らなかった。また、COVID-19 の状況により臨床現場も激動しており、今回はがん看護に関わる CN の専門的実践能力について、COVID-19 前に得られたデータの範囲で検討することに変更した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 YOKO Sugunari SAYAKA Obata |
| 2. 発表標題 Characteristics of Outstanding Nursing Practice of Certified Nurses in Cancer Nursing |
| 3. 学会等名 The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (国際学会) |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 直成洋子・小幡明香 |
| 2. 発表標題 がん看護に関わる認定看護師の看護実践の特徴－認定看護師の役割における実践の検討－ |
| 3. 学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 直成洋子・小幡明香 |
| 2. 発表標題 がん看護にかかわる認定看護師の『指導』における役割の検討 |
| 3. 学会等名 第35回日本がん看護学会学術集会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 直成洋子・小幡明香 |
| 2. 発表標題 がん看護に関わる認定看護師の『相談』における配慮の検討 |
| 3. 学会等名 第34回日本がん看護学会学術集会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Yoko Sugunari Sayaka Obata |
| 2. 発表標題 Feature of the Abilities of Certified Expert Nurses of cancer nursing |
| 3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 直成洋子・小幡明香他 |
| 2. 発表標題 がん看護に関わる認定看護師のキャリア成熟に関連する要因の検討 |
| 3. 学会等名 第33回日本がん看護学会学術集会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 小幡明香・直成洋子他 |
| 2. 発表標題 がん看護に関わる認定看護師の専門的実践能力とキャリア成熟の関係の検討 |
| 3. 学会等名 第33回日本がん看護学会学術集会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 小幡明香・直成洋子他 |
| 2. 発表標題 がん看護の困難感に関する研究 看護師の困難感とソーシャルサポートの実態ー |
| 3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 直成洋子・小幡明香他 |
| 2. 発表標題 がん看護を専門とする認定看護師の専門的実践能力に関する研究 - がん看護経験年数による比較 - |
| 3. 学会等名 第32回日本がん看護学会学術集会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 直成洋子・小幡明香他 |
| 2. 発表標題 がん看護を専門とする認定看護師の専門的実践能力に関する研究 - 認定看護師活動年数による比較 - |
| 3. 学会等名 第32回日本がん看護学会学術集会 |
| 4. 発表年 2018年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|--|----|
| 研究分担者 | 小幡 明香 (OBATA SAYAKA) (20734809) | 茨城キリスト教大学・看護学部・講師 (32101) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| | |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|